
5. <水球陣>関東学生リーグ5戦

H26.6.14 対成蹊大 @日本体育大学健志台プール

東大 2 1 1 2 計6

成蹊大 6 3 2 8 計19

得点者：浪間(4)、梶原(1)、山田(1)

上位リーグに進んだ東大。2位以上に入ることができれば目標としていたインカレに出場できるため、チームの士気は高まっていた。泳いでカウンターを防ぎ、なんとかロースコアの戦いに持ち込んで勝ちたい試合である。

第1ピリオド

成蹊ボールから試合が始まった。成蹊のプレスが強く、なかなかパスが回らない。パスミスからのカウンターで早くも点が取られてしまった。その後もカットに出たところをかわされ失点、カウンターから失点と立て続けに3失点してしまう。なんとか桐生から浪間のハンツーで得点するもその直後にゴール前に泳ぎこまれて失点してしまう。また、ミドルからのシュートで失点。波間がフローティングから得点するも、終了間際に退水から点を取られ、2対6で第1ピリオドは終了。

第2ピリオド

先制点を取って勢いづけたところであったが、カウンターであっさり先制点を許してしまう。何度かカウンターで決められそうになるが、ボールカットや疋田の好セーブで防ぐと、池亀から浪間のハンツーで1点を取る。しかし、その直後に退水から点を奪われ、再び引き離されてしまった。カウンターから1対1の状況で決められる。そのまま第2ピリオドが終了し、9対3。さらに点差を広げられてしまった。

第3ピリオド

退水のチャンスはあるもののシュートを決めることができない。成蹊、東大両チームにパスミスが目立つようになり、無得点のまま時間が過ぎていく。成蹊が退水からシュートを決め、その均衡を破ると、波間がバックシュートを決める。退水から再び点を取られてしまう。そ

のまま第3ピリオドが終了。

第4ピリオド

開始早々カウンターから点を取られると、そこから次々と点を取られてしまう。東大はパスミスが相次ぎ、シュートまで持っていくことができず、一方的に攻められる展開が続く。梶原、山田がミドルシュートを決めるも、13点差で試合終了。

泳いでカウンターを防ぐことが徹底されず、次々に点をとられる展開になってしまった。また、相手のプレスによってパスが回らず、攻めきれないという状況が非常に多かった。これからの課題が非常に多く見つかった試合であったが、夏リーグはまだ終わっていない。気持ちを切り替えて次の試合に臨みたい。最後に監督を務めてくださった三宅さん、試合を観に来てくださった林裕三さん、吉田さん、轟さん、只野さんに心からお礼申し上げます。

(文責 久田祐太郎)
